

# 一 般 質 問 発 言 通 告 要 旨

(令和5年三島市議会6月定例会)

発言 順位	発 言 者	発 言 要 旨	備考
1	村田 耕一	1 保育の充実による子育て支援について 2 子育て世帯が入居したくなる市営住宅へ 3 投票しやすい環境づくり	6/14 (水)
2	野村 諒子	1 少子化に伴う適切な三島市の教育のあり方の検討について 2 災害時の事前の備えへの支援と道路許可について 3 犬猫の糞の看板(屋外広告物)の適正管理について	
3	古長谷 稔	1 共助の強化など三島市の防災対策の現状と今後について	
4	宮下 知朗	1 公共施設を次世代に引き継いでいくために 2 自治体DXの更なる推進に向けて	
5	河野 月江	1 1年ぶりに示された三島駅南口東街区再開発事業の進捗状況について 2 医療的ケア児およびその家族に対する支援の充実を求めて 3 通過交通から歩行者をまもるゾーン30・ゾーン30プラスの促進を	6/15 (木)
6	秋山 恭亮	1 西間門新谷線について 2 三島市における自動運転バス導入の取り組みについて	
7	本間 雄次郎	1 三島駅南口東街区再開発事業について	
8	永田 裕二	1 大場地区土地区画整理事業の現状と今後の課題について 2 しやぎり(三島囃子)について	
9	弓場 重明	1 三島駅南口東街区再開発について 2 三島市新庁舎建設について 3 南北自由通路の早期開通について	6/16 (金)
10	岡田 美喜子	1 小中学校の通学区域について 2 コミュニティ・スクール推進と教職員の働き方改革について 3 公共交通の利便性向上に向けた取り組みについて	
11	沈 久美	1 地域に根つき地域の福祉向上を促す西幼稚園跡地の利活用について 2 アメリカザリガニの現状と条件付特定外来生物指定に伴う取り組みについて	
12	横山 雅人	1 曇らないカーブミラーの設置について 2 自主運行バスの今後について	
13	高田 康子	1 三島市公認のひとり親会設立について 2 新規事業のヤングケアラー支援推進事業について 3 新規事業の子育て短期支援について	6/19 (月)
14	石井 真人	1 新庁舎建設の整備方針と候補地の決定プロセスについて 2 市内小中学校におけるいじめ・不登校の支援体制と今後の方針について	
15	服部 正平	1 学校給食費の無償化について 2 ごみ処理施設について住民との信頼関係を維持・継続させるために 3 努力義務となった自転車乗車時のヘルメット着用に関して	
16	土屋 利絵	1 最後まで安心して三島の街に住みつづけていくために、買い物難民対策について 2 人口減少社会への公共施設をどうしていくのか 3 災害時のペット同行避難について	6/20 (火)
17	鈴木 文子	1 ヤングケアラー支援について 2 HPVワクチン定期接種について 3 災害時等の命を守る取り組みについて	
18	佐野 淳祥	1 DX時代の広報戦略で、「必要な人に」「必要な情報を」「必要な時に」どう届けるか 2 三島市の歴史、文化の継承と観光に生かす 3 中心市街地と商業の活性化	

# 一般質問発言通告書

発言順位 1番

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和 5年 6月 6日

三島市議会議長 藤江 康儀 様

三島市議会議員 3番 村田 耕一

質問事項 1	保育の充実による子育て支援について
具体的内容	2022年の出生数は前年比5.1%減の799,728人と発表されました。800,000人割れは比較可能な1899年以降で初めてのことであり、国の推計より11年早くなっています。若い世代の経済的不安を和らげ子育てに前向きになれるようにしていくため、以下伺います。
1	4月1日時点での待機児童数と潜在的待機児童数、また定員割れの状況を伺います。
2	保育所等入所申し込み後三島市が定めた利用調整指数により世帯ごとの指数を設定し、その指数が高い世帯から順に入園者を決定していきますが、その項目や配点がわかる利用調整指数表の開示についてどう考えていますか。
3	きょうだいと同じ園に通所できていない事例は何件ありますか。
4	きょうだいが入園に入ることにどのような配慮がなされていますか、またこれからの見直しはできますか。
5	低年齢児の受け入れ増加に対して保育士の確保のため保育士の処遇改善策はどう考えているか伺います。
質問事項 2	子育て世帯が入居したくなる市営住宅へ
具体的内容	政府は、若い世代や子育て世帯への住居支援を拡充する意向を示しています。公営住宅に子育て世帯が優先的に入居できる仕組みを検討するとも表明しています。三島市では柳郷地住宅で4月30日時点で21室（柳郷地住宅の20%）が空室であり、山田住宅についても今後の改修を検討し新規入居は行っていません。この市営住宅を子育て世帯が住みやすいように改修したり、子育てコンシェルジュが近くにいるような住宅にできないかと考えます。子育て世帯に順次使っていただくために入居期間を設定してもいいかもしれません。そこで以下伺います。
1	山田住宅の現状と改修事業の内容と今後の予定を伺います。
2	柳郷地住宅の空き室や山田住宅に対して子育て世帯が住みたくするような改修や子育てコンシェルジュを配置することについて見解を伺います。
質問事項 3	投票しやすい環境づくり
具体的内容	令和5年4月23日投票の三島市議会議員選挙の投票率は46.49%、令和元年は46.83%、平成27年は49.87%、平成15年は61.02%、平成3年は69.26%であり、選挙ごとに投票率が下がっています。今回でいうと有権者の方の半分以上が投票しておらず、選挙という制度がこれで良いのかという状態にも感じます。そこで、投票しやすくなる方策について伺います。
1	商業施設での期日前投票所の開設をしたものの投票率は下がっているが見解を伺います。
2	投票所に行く事が難しいもしくは面倒くさいという理由が多いが、北上文化プラザ、中郷文化プラザ、錦田公民館の3か所の期日前投票所を開設できないか伺います。
3	投票率の向上について、たとえば前日土曜日に楽寿園でイベントを開催し楽寿園で投票ができるようにしたらどうか。
4	茨城県つくば市で2024年の市長選挙でネット投票の実現を目指しているようだが考えを伺います。

# 一般質問発言通告書

発言順位 2番

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和 5年 6月 6日

三島市議会議長 藤江 康儀 様

三島市議会議員 17番 野村 諒子

質問事項 1	少子化に伴う適切な三島市の教育のあり方の検討について
具体的内容	コロナ禍の3年が経過し、少子化のスピードが加速し歯止めがかからない状況が続いています。三島市の0歳児数が令和5年4月30日現在で527人となり、10年前と比較すると43%減少しています。この現状を客観的に把握し取り組むことが重要であると感じます。 第2期三島市学校教育振興基本計画では、児童生徒数の減少に伴い、子どもの教育環境を第一に、地域の実情に応じた適切な学校教育のあり方や学校規模の検討を進める必要があるとされていますが、今後検討しようとしている内容について伺います。
1	出生数の減少と階層別人口の推移と今後の見通しについての見解について
2	坂小学校あり方検討会を実施した背景と今後の進め方について
3	小学校区別児童生徒数の推移と予測から望ましい学校規模の議論が必要と思うがどうか。
4	少子化に伴い望ましい教育環境の実現を図るために、適正な学校規模の検討や適性配置を考慮した「三島市の教育のあり方」を検討すべきと考えるがどうか。
質問事項 2	災害時の事前の備えへの支援と道路許可について
具体的内容	全国で地震が頻発し、地震に備えることの重要性は認識されつつありますが、十分な備えをするには、高齢者世帯などでは非常にハードルの高いものもあります。 そのような中で、十分な水の備えを補助金などにより促すことや、救急搬送時の道路使用許可を出すことが必要ではないかと思い、伺います。
1	水道管直結型の給水タンクの普及促進はできないか伺う。 水の備えは、家族2人でも10日分で60リットル、日持ちする水でも入れ替えて管理するのは大変である。高齢者世帯が増えている中では十分な備えが難しい場合もある。 そこで、災害時には加圧して使える災害対応型給水タンクを普及できないか伺う。
2	災害時における重傷者救急搬送の道路通行について伺う。 地震等大規模災害時では、通常の救急車で搬送ではなく地域住民が協力して受け入れ病院（三島総合病院）まで重傷者を運ぶケースも考えられる。 その場合に伊豆縦貫道などを通行することについて、警察と協議できないか伺う。
質問事項 3	犬猫の糞の看板（屋外広告物）の適正管理について
具体的内容	三島市は富士伊豆箱根国立公園に接し、屋外広告物は環境に配慮したものとされ「三島市屋外広告物条例」を施行し、適正に管理指導されていると思います。 しかし、一度設置されたものが長年放置され、また、その近くに同じようなものが掲示されるという状況が起きているケースも見られます。設置されたものの管理責任と指導に問題はないのでしょうか。その取り組みについて伺います。
1	犬猫の糞の始末看板設置の手続きについて伺う。
2	大量の看板が設置された場合、それ自体が美観を損ねているケースがあるが、撤去等の指導はできないか伺う。

# 一般質問発言通告書

発言順位 3番

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和 5年 6月 6日

三島市議会議長 藤江 康儀 様

三島市議会議員 11 番 古長谷 稔

質問事項 1	共助の強化など三島市の防災対策の現状と今後について
具体的内容	約3年間続いたコロナ禍で、三島市においても地域の人々のつながりが、これまでに以上に薄れてしまった。普段暮らすだけであれば、人とつながらずとも暮らしていくことはできる時代。しかし自然の脅威の前には、人がつながって力を合わせなければ対応できない、と考える人は多い。コロナ禍も比較的落ち着いてきた今、防災をきっかけにすれば、地域のつながりを再構築しやすいと考える。水害時、地震時、それぞれ備えは異なるが、地域の人々がお互いに輪を掛け合っつながることで、災害への対応力が増すのはもちろんのこと、高齢世代にとっても、子育て世代にとっても、安心して暮らせる地域を作り出すことになる。自助、共助、公助のうち、共助の部分で地域差が出ることは、過去の災害からも明らか。共助を強化する方向性として、「自分たちの地域は自分たちで守る」という考え方に基づく自主防災活動の強化と、「自宅での避難生活」に向けた準備の強化が大切と考える。個人的には、自主防災活動の強化を突き詰めていけば、三島は防災日本一と呼ばれる市になり得ると考える。以下、三島市としてどのように取り組む考えか、現状の認識と今後の方向性を伺う。
1	共助を強化する方向性について
	(1) 初動を握る自主防災会単位の災害対策本部（自主防災本部）の立ち上げと、初期消火や救出救助など班別の自主防災活動の実施に向けた訓練の必要性の認識について
	(2) 各自治会がつくる「地区防災計画」の現状と今後
	(3) 自治会放送機材（防災無線）の災害時（停電時）の活用
	(4) 令和6年度で終了とされている「わが家の専門家診断事業」や、「TOUKAI-0」など耐震補強、耐震シェルター施策等の現状と今後
	(5) 大規模地震時の自宅での避難生活を想定した「し尿」の燃えるゴミとしての処理、災害廃棄物仮置き場の設置など、災害廃棄物処理計画について
	(6) 自主防災組織活動状況アンケート調査の結果を踏まえると、人材育成という視点から、出前講座や訓練指導などを市に依頼したいというニーズが高いことに対してはどうか。
2	三島市に関係する水害を防ぐための排水施設・設備の能力と被害想定について
	(1) 三島市に関係する国、県、市が有する排水施設・設備の能力の現状と課題、災害時に市の災害対策本部では、市内の排水状況の全容が把握できているのか。
	(2) 5月25日発表の境川排水機場のポンプ不具合から見える今後の対策
	(3) 狩野川放水路の現状と今後について
	(4) 田んぼダムの展望
	(5) 排水施設・設備の存在と、ハザードマップ（浸水被害想定演算結果）の関係

# 一般質問発言通告書

発言順位	4番
------	----

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和 5年 6月 6日

三島市議会議長 藤江 康儀 様

三島市議会議員 18番 宮下 知朗

質問事項 1	公共施設を次世代に引き継いでいくために
具体的内容	
<p>昭和40年代から50年代にかけて集中的に整備され、これまで大きな役割を果たしてきた公共施設の多くが老朽化に伴う改修・更新時期を迎えつつあるなか、本市では令和2年度から令和31年度を計画期間とする「三島市公共施設等総合管理計画」を策定し、安全・安心な公共施設を次世代に引き継ぐことを目的に鋭意取り組んでいるものと認識する。</p> <p>同計画の目的を達成するとともに貴重な財源を市民サービスに還元していくためにも、可能な範囲で計画に準じた推進を図ること、様変わりする社会情勢等を踏まえた柔軟な検討を重ねていく必要であると考え、以下について伺う。</p>	
1 これまでの取組について伺う。	
2 短期計画にて今年度までに「廃止・解体」を掲げる以下施設における検討状況を伺う。	
(1) 長伏公園プール	
(2) 旧北上公民館	
3 社会情勢等を踏まえ、以下施設に対する今後の在り方について見解を伺う。	
(1) 市立幼稚園	
(2) 箱根の里	
(3) 市立養護老人ホーム 佐野楽寿寮	
質問事項 2	自治体DXの更なる推進に向けて
具体的内容	
<p>多様化・複雑化する行政ニーズにきめ細かく対応し、より利便性の高いものとしていくための手段として、自治体におけるDX推進の取組は今後さらに重要度を増すものとする。</p> <p>本市においては、令和元年12月にスマート市役所宣言を行って以降、コロナ禍も相まってデジタル化が着実に進展しているものと認識するが、これまでの取組状況および今後の進め方について以下伺う。</p>	
1 電子申請可能な手続きの利用状況について伺う。	
2 デジタル技術活用による業務改善効果について伺う。	
3 産官学民が連携したデータ利活用や産業活性化などまちづくりのデジタルファーストの取組状況について伺う。	
4 デジタルデバインド解消に向けた取組状況について伺う。	
5 今後の進め方について伺う。	

# 一般質問発言通告書

発言順位 5番

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和5年6月6日

三島市議会議長 藤江 康儀 様

三島市議会議員 10番 河野 月江

質問事項1	1年ぶりに示された三島駅南口東街区再開発事業の進捗状況について
具体的内容	三島駅南口東街区A地区市街地再開発事業は、現在7月31日の権利変換計画縦覧開始期目を目前に、組合による権利変換計画作成と実施設計が大詰めを迎えていると思われる。こうした中で去る6月1日、三島市は昨年6月から実に1年ぶりに事業の進捗状況を示す市民説明資料を公開した。その内容と関連事項について以下同う。
	1 工事費について
	(1) 価格交渉の進捗状況
	(2) 工事費高騰に対する国の新たな支援制度の内容と活用検討の理由、及び活用に伴う組合及び市の負担の有無
	2 市の権利変換等について
	(1) 廃止となる市道の取扱い
	(2) 従前価格に対する駐車台数と増床分負担額について
	(3) 市の補償費の算出基準と提示額および市の同意基準
質問事項2	医療的ケア児およびその家族に対する支援の充実を求めて
具体的内容	令和3年9月18日「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が施行された。最近の厚労省の調査結果によれば、医療的ケア児（以下“医ケア児”）の家族の4割強が、医ケア児の退院前に病院や行政から「地域で利用できる支援制度の十分な説明がなかった」と回答している。市内医ケア児家族からは、依然「必要な情報が得にくい」「利用可能なサービス事業所探しに苦労する」などの声も聞かれる。法律施行から丸2年を前に、自治体の「責務」となった各支援措置における現状と課題とともに、支援充実にむけた方針や提案する市独自の支援策への見解等を伺う。
	1 同法律への認識について
	2 本市における医ケア児の状況について
	3 各施設での取組みの現状と課題（幼稚園・保育施設、小中学校、障害児通所支援）
	4 相談体制整備の現状について
	5 支援充実にむけた第3期障害児福祉計画策定の進捗状況
	6 市独自の支援策について（ex 名取市「医療的ケア児支援事業」、松坂市「医療的ケア児通院等交通費助成事業」、保険外医療費の助成）
質問事項3	通過交通から歩行者をまもるゾーン30・ゾーン30プラスの促進を
具体的内容	三島警察署管内においては、2010年からの13年間を見ると、発生した人身事故における当事者歩行者の割合が6.2ポイントも増加している。他方、全国の交通事故統計によれば、歩行者や自転車の人身事故の発生割合は、幅員の狭い道路の方が高いことが明らかになっている。市民意識調査では例年、「歩道の整備」「生活道路の整備」が37項目中ワースト2である状況が続いていながら、短期間で一度に整備が進まない現状においては、生活道路において歩行者を守るために有効なあらゆる安全対策を強化することが必要と考える。その1つであるゾーン30及びゾーン30プラスの促進について、市の見解を伺う。
	1 市内で既に実施している2ヶ所（長伏区域、徳倉第5自治会・徳倉第6町内会区域）での実施状況と効果の検証について
	2 今後の市の方針と、各自治会・町内会等との連携について

# 一般質問発言通告書

発言順位	6番
------	----

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和 5年 6月 6日

三島市議会議長 藤江 康儀 様

三島市議会議員 1番 秋山 恭亮

質問事項 1	西間門新谷線について
具体的内容	平田新谷線（(都) 西間門新谷線）は、東駿河湾広域都市圏（2市2町）における都市内主要幹線の一部で国道1号線と並行に走る東西の路線である。 この路線は市町間連絡のための交通ネットワークを構築し、交通混雑の緩和や産業の活性化につなげる非常に重要なものである。 この西間門新谷線を可能な限り早期に供用開始し、地元住民・三島市民・周辺市町にとってもより良い路線となるよう取り組んでいくことは大切な使命であると考えている。 西間門新谷線の三島市における現状、今後の予定について伺う。
	1 土地収用について、現在の進捗状況と今後の計画、供用開始の時期目標について伺う。 2 県施工となる136号線との接合工事について、詳細を伺う。 3 市民から大溝川沿いの農道接合部に信号取り付けの要望がある。三島市としての見解を伺う。 4 平田新谷線周辺の今後の土地活用の方向性について伺う。
質問事項 2	三島市における自動運転バス導入の取り組みについて
具体的内容	2023年4月、限定地域であれば運転手が乗車しなくてもよい、いわゆる「レベル4」の自動運転車を活用した公道での巡回サービスが解禁となった。自動運転バスは人件費の削減・交通弱者への救済・ヒューマンエラーによる事故の抑止等、大きなメリットがある。日本では福井県永平寺町でいち早くレベル4の巡回バスが実現している。また国土交通省も、2023年度を「電動化・自動運転実装元年」に位置付け、自動運転車両の開発・実用化や、道路インフラ側での支援について自動車、道路の両局が一層連携を深めるとともに、他の交通モードなど全省一丸で取り組みを推進していくと発信している。そこで下記の点を伺う。
	1 静岡県には様々な事情を抱えた市町がある。近年の静岡県内の自動運転バスの取り組み事例を伺う。 2 2市1町（三島市・裾野市・長泉町）の協議会が発足していると伺っている。三島市と近隣市町の連携について伺う。 3 三島市における自動運転バス運行のメリットを当局はどのように考えているのか。また将来想定される運行方法・路線はどのようなものになるのか。 4 今現在の状況、取り組みについて伺う。

# 一般質問発言通告書

発言順位 7番

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和 5年 6月 6日

三島市議会議長 藤江 康儀 様

三島市議会議員 21番 本間 雄次郎

質問事項 1	三島駅南口東街区再開発事業について
具体的内容	
世界情勢動向により建材費高騰や、電気料金値上げなど、多くの社会課題がタイムリーに変化し続けている。更には人口減少という社会基盤そのものが大きく変化する点を踏まえると、マンションや商店を羅列するように従来の再開発から代わり映えないものでなく、他市町と比べても希少性のある駅前の街並みを創造すべきだと考える。	
また三島駅南口再開発事業は、大前提として3点の重要ポイントがあると考えます。	
①三島駅前という三島市内では唯一無二の好立地での開発であること②三島市所有の土地が本事業に供与されること③市民、県民、国民の税金が大量投入される事業であること、以上3点である。これらを踏まえ、審議はより慎重に、かつオープンに遂行されるべきであるものと考えます。	
以下について伺う。	
1 商業スペース約4,500㎡に創り出す「にぎわい」の数値的根拠について	
2 竣工後の事業主体となる管理組合の収支予想は三島市の手元に存在するのか。	
3 竣工後の事業主体となる管理組合に三島市は組合員として参加するのか。する場合の構成割合はいくつになるのか。(イーラ de 管理会社に対する沼津市構成割合：56.24%)	
4 竣工後の事業主体となる管理組合の運営がもし赤字経営となった場合、三島市の財政負担はあるのか。(イーラ de 管理会社に対する令和3年度沼津市負担金：58,979千円)	
5 一般地権者との権利変換交渉において、各々の所有地の価格査定に基づいた金額交渉を当然しているはずだが、その金額を土地単価も含め、公開すべきと考える。個人名は伏せた形であっても公開する考えはあるか。	
6 一般地権者との権利変換交渉において、変換後に取得する権利床（主にマンション）を維持していくための負担（管理料、修繕積立金、駐車料）を公開すべきと考える。個人名を伏せた形であっても公開する考えはあるか。	
7 ロシアへの経済制裁や新型コロナによって生じたウッドショックなど、様々な要因によって建築資材が高騰し、大幅な経費増加が今後も生じた場合、その負担を協力事業者であるミサワホームがするのか。再開発組合がするのか。	
8 経費増加により利益を見込めない、とミサワホームが判断した場合、本事業からの撤退はあり得るか。	
9 定期借地事業の内容として商業施設、ホテルとなっているが、ホテルについては交渉中の事業者はあるのか。交渉経過について伺う。また交渉が進んでいないのであれば、他業種であっても他の有力な交渉先があれば、柔軟に交渉するのか。	
10 本事業は官民一体で行う事業であることに加え、再開発区域、定期借地区域、ホテル、駐車場、マンション...と言ったように所有者、管理者が大変複雑に入り混じった事業である。遠い将来においても老朽化、建替、運営の行き詰まりなどが起きた場合に責任の所在が明確にならず、困難な問題が多方面で生じることを市は想定しているのか。	



# 一般質問発言通告書

発言順位
------

8番
----

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和 5年 6月 6日

三島市議会議員 藤江 康儀 様

三島市議会議員 7 番 永田 裕二

質問事項1	大場地区土地区画整理事業の現状と今後の課題について
具体的内容	<p>三島市内最後のフロンティアとも称される本事業には、地権者、周辺住民、三島市の将来の発展を願う市民からも大きな期待が寄せられており、事業の進捗状況と今後の工程について伺います。</p> <p>合わせて、市民が希望を抱ける開発とすることができるのか、その可能性について伺います。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 現時点での進捗状況と今後の工程</li><li>2 既存の住宅に居住されている方と周辺住民、商業者等への配慮<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 既存の住宅に居住されている方への周知・広報</li><li>(2) 周辺住民への周知・広報</li><li>(3) 周辺道路の渋滞、危険の増加等の検討</li><li>(4) 事業完了後に一部競合が予想される周辺商業者への配慮</li></ol></li><li>3 周辺地域も含めた水害対策の検討</li><li>4 隣接する函南町との連携</li></ol>
質問事項2	しゃぎり（三島囃子）について
具体的内容	<p>三嶋大祭りにおいては伝統ある「山車の引き廻し」や三嶋大社社頭での「競り合い」を当番町制度に関わる自治会や演奏団体の皆様が継承してくれています。しかし近年は今後の継承に不安を感じている方もいるようです。一方で当番町制度に関わっていない自治会の演奏団体等にはその機会はありません。</p> <p>また、コロナ禍や少子化の影響により、特に子ども達の演奏団体の多くがその存続が危ぶまれる状況となっています。</p> <p>このような状況において現在認識されている課題について伺います。</p> <p>また、諸課題を解決するためにはしゃぎり演奏団体を一つに取りまとめ、話し合う場所を三島市が事務局となり、リーダーシップを発揮して早急に作る必要があると考えますが、市としての考えを伺います。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 しゃぎりを継承していくための課題認識</li><li>2 継承・育成していくための施策、課題克服のための方策</li><li>3 しゃぎり団体が集まり話し合う場の創設</li><li>4 しゃぎりを観光誘客につなげる取り組み</li></ol> <p>三島駅南口東街区再開発事業に関する市民説明資料（2022年6月）（2023年6月）に掲載されているしゃぎり保管展示について</p>

# 一般質問発言通告書

発言順位 9番

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和5年6月6日

三島市議会議長 藤江 康儀 様

三島市議会議員 22 番 弓場 重明

質問事項 1	三島駅南口東街区再開発について
具体的内容	
<p>総務省が定義する近未来における社会は、「Society5.0の実現(『第5次三島市総合計画』P5参照)、IT(インフォメーション・テクノロジー)からICT(人とインターネットをつなぐことで、人と人をつなぐ技術)・IoT(あらゆるものがインターネットにつながる状態もしくは技術)へ進化し、地方においても持続可能なサービスの提供や生産性向上のため、5つの戦略(健康寿命の延伸、移動革命の実現、サプライチェーンの次世代化、快適なインフラ・まちづくり、政策資源を集中的に投入)を積極的かつ集中的かつ最大限に取り入れなど、多分野・多岐にわたる施策です。Society5.0の実現に向けた視点で伺う。</p>	
1 現在の社会情勢及び景気や物価の動向を考えると大変危惧される。一度立ち止まってあらためて考えて見る選択肢(身の丈の開発、規模の縮小)はあるのか。	
2 総務省が定義する近未来における社会『Society5.0』、に快適なインフラ・まちづくり、5つの戦略に対応している施設なのか。	
3 再開発完了後混雑が予想される。公共交通機関に限定した駅前エリアへの乗り入れは可能か。	
4 バス会社等がインターネットで制御する一元的な運行形態が今後必要になってくると思われる。Society5.0社会実現の為の5つの戦略を駆使し官民一体で取り組む考えはあるのか。	
質問事項 2	三島市新庁舎建設について
具体的内容	
<p>三島市では『第5次三島市総合計画』が策定されて3年目になる。総合計画の中にP136・基本目標6・共に創る持続的に発展するまち・37スマート自治体・目的として情報通信技術により、便利で質の高い市民サービスの提供、効率的な行政運営、産業の活性化を図るスマート市役所を実現する事とある。市役所単体の事ではなく、あらゆるものがインターネットにつながる状態にする事により5つの戦略が実現可能となる社会の実現。その視点で伺う。</p>	
1 三島市は、令和元年7月にSociety5.0社会の実現を目指して全庁的に推進する「スマート市役所推進に関する委員会」を立ち上げたとの事であるが、現時点の進捗状況について	
2 総務省ではスマート自治体(執行機関・議決機関)と定義しているが、スマート市役所とした点についての経緯は。	
3 現在検討中の新庁舎建設にSociety5.0社会実現の為の5つの戦略を盛り込むならば場所や規模もおおのずと決まってくるのではないのか。	
質問事項 3	南北自由通路の早期開通について
具体的内容	
1 今、長泉町の三島駅北口周辺の開発が著しく、北上地区の利便性が以前より増している。南北自由通路は、三島駅周辺の利便性を考えた時、是非とも実現させたい。そこで現在及び今後の計画・予定はあるのか。	
2 以前提案された東レ工場の引き込み線を利用した通路も一案かと考えるが、可能性はあるのか。あるならば、Society5.0社会実現の為の5つの戦略を駆使し官民一体で取り組む考えはあるのか。	

# 一般質問発言通告書

発言順位 10番

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和 5年 6月 6日

三島市議会議長 藤江 康儀 様

三島市議会議員 19番 岡田 美喜子

質問事項 1	小中学校の通学区域について
具体的内容	小中学校の通学区域については、令和元年11月議会において学校の選択制や通学区域の変更等議論させていただき、一定の方向性を求めた。通学区域とは、就学校の指定をする際の判断基準として、教育委員会があらかじめ設定した区域であるが、市民の方からは「なぜ、家から一番近い学校に通えないのか」といったご相談がある。 少子化が進む中、現在の通学区域は現状に合致しているか以下を伺う。
	1 通学区域の基本的な方針について
	2 保護者からの相談状況について
	3 登下校の安全確保について
	4 通学区域の変更や弾力的運用ができないか。
質問事項 2	コミュニティ・スクール推進と教職員の働き方改革について
具体的内容	文部科学省は、令和4年3月にコミュニティ・スクールの在り方等に関する検討会議の最終報告を公表し、教育課程や働き方改革等、学校運営に大きな効果があったとしている。 また、6年ぶりに教員の勤務実態調査を実施し、令和5年4月に公表した。 三島市において、子どもたちのタブレット導入や公務のデジタル化で教職員の働き方は改善されたのか伺う。
	1 コミュニティ・スクールの現状と課題をどのように捉えているか。
	2 コミュニティ・スクールの推進と教職員の働き方改革の関係性について
	3 教職員の働き方改革の成果と今後の取り組みについて
質問事項 3	公共交通の利便性向上に向けた取り組みについて
具体的内容	三島市では、平成30年に「三島市地域公共交通網形成計画」を策定し、将来に渡り持続可能な公共交通網の形成や利用促進策による利用者増加対策を検討してきた。今年度は「地域公共交通計画」を策定し、市民ニーズに対応できる公共交通メニューの充実を図っている。三島市市民意識調査によると、公共交通に対する満足率は年々減少している。また、公共交通空白地帯は徐々に解消されてきたものの、増便を望む声等、要望が多く聞かれる。 高齢者や子育て世代の外出支援、通勤通学等、公共交通の果たす役割は大きく、きめ細かな市民ニーズへの対応が求められる。公共交通の利便性向上について伺う。
	1 地域公共交通の現状と課題について
	2 市民ニーズの把握について
	3 路線バス増便に対する課題について
	4 きたうえ号の路線延長の可能性について



# 一般質問発言通告書

発言順位	12番
------	-----

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和 5年 6月 6日

三島市議会議長 藤江 康儀 様

三島市議会議員 6番 横山 雅人

質問事項1	曇らないカーブミラーの設置について
具体的内容	
<p>冬場の寒い時期は、カーブミラーが結露し見えにくく大変危険な状況が発生しています。見通しの悪い交差点では徐行しなければならないとありますが、見えないことはとても不安です。住民の、登校時の子どもたちの、安全・安心を守るために曇らないカーブミラーの設置について伺います。</p>	
<ol style="list-style-type: none"><li>1 過去5年間の市内のカーブミラー設置数とそのうちの新規設置件数、交換件数</li><li>2 カーブミラーの維持管理の状況</li><li>3 カーブミラーの耐用年数とそれによる今後の老朽化に伴う交換件数の見込み</li><li>4 過去の曇らないカーブミラー設置の実績</li><li>5 今後の曇らないカーブミラーの設置（市内通学路の危険個所から優先的に）</li></ol>	
質問事項2	自主運行バスの今後について
具体的内容	
<p>2022年の運転免許証の自主返納者数は44万8476人でした。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で前年より減少しているとはいえ、75歳以上の自主返納件数は2011年にはわずか3万件だったのに、2020年には約30万件まで増加しました。10倍以上に増加したことになります。その中で三島市では現在自主運行バスが運行され、とても便利だと感じています。そこで今後の自主運行バスについて伺います。</p>	
<ol style="list-style-type: none"><li>1 三島市の自主運行バスの現況</li><li>2 利用者層や利用目的の実態把握</li><li>3 自主運行バスの収支率と利用率向上PR</li><li>4 運賃の値上げとキャッシュレス化</li><li>5 自主運行バスを使った市内観光、イベント等の地域連携</li></ol>	

# 一般質問発言通告書

発言順位 13番

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和5年6月6日

三島市議会議長 藤江 康儀 様

三島市議会議員 15 番 高田 康子

質問事項1	三島市公認のひとり親会設立について
具体的内容	<p>生活の多様化による暮らしの変化の中で、いろいろな家庭がありそれぞれの困難さがある中、ひとり親家庭の困難さについて、三島市がどのような把握をし、支援もしくは手助けをさせていただけるのか、以下についてお伺いいたします。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 三島市が把握しているひとり親世帯の割合、シングルマザー、シングルファーザーの割合はどのようになっているのか。</li><li>2 三島市が公的に認めているひとり親会はあるのか。</li><li>3 ひとり親の方々の切実な声に対して、三島市の対応はどのようになるのか。</li><li>4 ひとり親家庭への手助けはどのような事が考えられるのか。</li></ol>
質問事項2	新規事業のヤングケアラー支援推進事業について
具体的内容	<p>ヤングケアラーの問題が注目されている中で、三島市でも令和5年度からヤングケアラー支援推進事業に対する予算が計上されているが、その詳細について以下のとおりお伺いいたします。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 ヤングケアラー支援推進事業の実施に至った経緯と事業の概要について</li><li>2 ヤングケアラーをどのように探して認定し、どのような対応をするのか。</li><li>3 ヤングケアラーに対する聞き取りはどのように行うのか。</li><li>4 訪問型子どもサポート事業の委託先事業者の選定はどのように行うのか。</li></ol>
質問事項3	新規事業の子育て短期支援について
具体的内容	<p>令和5年度の新規事業である子育て短期支援臨時特例事業補助金の詳細について、以下のとおりお伺いいたします。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 補助金の対象となる子育て短期支援臨時特例事業の概要と対象となる事業者について</li><li>2 対象となる児童の年齢層と事業利用の流れについて</li><li>3 事業の利用にあたっての利用者の負担について</li></ol>

# 一般質問発言通告書

発言順位 14番

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和5年6月6日

三島市議会議長 藤江康儀様

三島市議会議員 8番 石井真人

質問事項1	新庁舎建設の整備方針と候補地の決定プロセスについて
具体的内容	新庁舎を整備する候補地について5月25日に市議会議員向けの説明会が開催され、本年度中を目途に決定する旨の説明があった。そこで新庁舎の整備方針と候補地の決定プロセスに関して以下に伺う。
	1 庁舎の建設規模についての考え方。今後、自治体DXの推進や北上・中郷文化プラザ・錦田公民館などの地域サテライト拠点の強化をした場合、令和13年度供用開始予定の新庁舎の規模が1万3,000㎡以上、かつ駐車場は約250台必要となる旨の根拠。
	2 生涯学習センターや体育館などの既存公共施設を仮設庁舎として考えられるか。新たに仮設庁舎を建設する場合と比較し、どのくらいのコスト圧縮が見込めるか。
	3 南二日町広場の場合は、浸水対策費として約5～6億円といわれているが、その事業内容及び道路冠水など、周辺地域へのリスク対策はどこまで考えているのか。また、追加費用としての増額はあるのか。
	4 南二日町広場に新庁舎を建設する場合は、南西に位置する御殿川について、県事業で未着手のままになっている区間の河川改修が必須と考えるがどうか。
	5 保健センターと社会福祉会館については、新庁舎に移設するのではなく、今後移設予定の医師会館及びメディカルセンターへ一体化させて、医療福祉健康の拠点として整備してはどうか。
	6 本年10月に予定している市議会の要望が、候補地決定に際して、どこまで考慮されるのか。市議会の要望を受け、候補地決定に至る最終判断までのプロセスを明確にしていきたい。
質問事項2	市内小中学校におけるいじめ・不登校の支援体制と今後の方針について
具体的内容	全国的にいじめ・不登校児童生徒数は増加傾向にあり、文部科学省からは、「不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）」が示されている。そのような中で、現在の三島市内小中学校における支援体制の現状と今後の方針について以下に伺う。
	1 本市におけるいじめの認知件数と不登校の件数について直近の推移とその原因及び、タブレット端末による心の相談フォーム導入による効果と早期対応の状況は、本人又は周囲の子供たちからは、具体的にどのようなSOSの声があがっているか。
	2 新型コロナウイルス感染症の法律上の位置づけが「2類相当」から「5類」に変わったことによる学校生活の変化
	3 市内中学3校でスタートした校内支援室の状況と今後の展望（小学校への拡大）
	4 不登校や欠席児童などの学習促進のために、全小中学校で常時オンライン化を行い、自宅、校内支援室、学校の別室、ふれあい教室などで、本人の希望するタイミングで授業を閲覧できるような環境整備ができないか。さらに、録画対応についてはどうか。
	5 いじめ解消につながる事後対応から、いじめ予防の強化に向けての考え方
	6 ふれあい教室の機能強化による教育支援センター化への検討（PR強化、相談窓口の一本化、SC・SSWの常勤・常駐化とスーパーバイザー配置、オンラインカウンセリングの実施、訪問型支援の実施、個別学習指導の強化、月曜日の対応、土日開校による学生生活用）

# 一般質問発言通告書

発言順位 15番

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和 5年 6月 6日

三島市議会議長 藤江 康儀 様

三島市議会議員 9番 服部 正平

質問事項 1	学校給食費の無償化について
具体的内容	党議員団は「学校給食費無償」をこの間求め続け議会で質してきましたが、三島市は無償化については ①学校給食法第11条の規定から保護者からの徴収が可能とされていること。②約4億7,000万円の財政措置が困難であること。を理由に前向きに取り組む姿勢ではありませんでした。しかし、この間これらを理由に無償化を拒み続けてきた市町が無償化に踏み切り、無償化自治体が急速に増加し、国においても無償化についての議論が高まりつつあります。これらを受け、改めて「学校給食費無償化」を求める立場で以下伺います。
	1 平成29年度文科省が実施した「学校給食費無償化実施状況調査」について
	2 平成29年度以降「無償化」に取り組んでいる自治体数、無償化に取り組んだ市町の導入目的と経緯及びその成果について
	3 当市が考える「無償化」におけるメリットについて
	4 無償化にあたっての予算措置の考え方について
質問事項 2	ごみ処理施設について住民との信頼関係を維持・継続させるために
具体的内容	三島市ゴミ中間処理施設、最終処分場埋め立て地に関わって、幾度となく質させていただきました。そのいくつかの回答内容について以下の点で確認をさせていただきます。
	1 ごみ処理施設に関心を持つ住民が県に対し公開質問状を提出された件について
	(1) 質問への回答については県は三島市に行わせるとした。市の回答の有無について
	2 市道祇園原線に噴出している赤褐色の水について
	(1) 継続して湧き出ている水に対応する工事の目的について
	(2) 以前はきれいな湧き水であった水がなぜ赤褐色の水に変わったのかについて
	(3) 湧き水の捉え方、水質分析に対する対応について
	3 ごみ処理施設新規第4埋め立て地及び今後検討される新規中間(焼却)処理施設について
	(1) 新規第4埋め立て地の安全性についての住民説明は行われているか。
	(2) 加茂町内会総会における新規中間処理施設(焼却施設)に関する対応について
質問事項 3	努力義務となった自転車乗車時のヘルメット着用に関して
具体的内容	今年4月から自転車の乗車に際してはヘルメットの着用が努力義務化されました。三島市は、ヘルメット着用推進に向け、三島警察署、学校関係、各団体とも連携・協力し啓発活動を行い、ヘルメット購入にあたっての補助制度を今年度予算に計上しました。これらは自転車を利用する「市民のいのちを守る」とする目的から評価できます。今後は努力義務から義務となることも想定されることから今後の対応について以下伺います。
	1 ヘルメット着用状況とヘルメット購入補助金の支出状況と今後の見通しについて
	(1) 現状の申請数(購入年齢層)、今後の見込み、追加補正は検討されるか。
	2 小学生が通学時に使用する黄色いヘルメットの運用及び中学生におけるヘルメットについて
	(1) 黄色いヘルメットは購入要件に適合しているか、また、中学生についての対応はどうされているか。



# 一般質問発言通告書

発言順位 16番

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和 5年 6月 6日

三島市議会議長 藤江 康儀 様

三島市議会議員 12番 土屋 利絵

質問事項 1	最後まで安心して三島の街に住みつけていくために、買い物難民対策について
具体的内容	何を食いたいかを考えながら、その日のお財布と相談し、必要な食料を買っていく行為は、生活そのもので、生きていくための大切な営みです。ひとり暮らしになっても、毎日献立を考え、料理をしていくことは、それがそのまま自分の元気を作っていく、究極の病気予防といえます。しかし、買い物難民という言葉が聞かれ始めて10年以上経ちます。買い物にも行けないということは、周りに誰も頼める人がいなかったり、人とのコミュニケーションが不足していたりというサインにもなりえます。三島市を挙げて買い物難民対策に取り組むことは、孤立予防にもなり、健康をサポートすることでもあり、自然なフレイル予防といえます。
1	地域ごとの現状把握について
2	都市計画の見直しについて
3	デマンド交通について
4	民間移動スーパーへの補助について
質問事項 2	人口減少社会への公共施設をどうしていくのか
具体的内容	日本全体においても、2022年の日本の出生数が過去最少の79万9,700人となり、僅か5年間で20万人近くも減少し、2030年代に入ると、若年人口は現在の倍の速さで急速に減少してまいります。 三島市においても、5年前には800人であった出生数が600人台になっております。子育て施策や移住定住の促進を図りつつ、人口減少社会に公共施設を合わせていくために、すべての公共施設を建て替えることは金銭的にとても難しいながらも必要なことです。 その中で、三島市は、平成28年に公共施設等総合管理計画をつくり、令和11年度までに公共施設を1,737㎡減らすことを検討していくことになっています。これはほんの序の口で、令和21年度までに約21,000㎡、令和31年度までに約52,000㎡を減らしていかなければ、建て替えや修繕費用が出せなくなると試算しています。
1	令和11年までの1,737㎡の削減に向けてどのような動きをしているのか、現在の状況について
2	令和11年までに統廃合や民間委託を検討することになっている公立幼稚園、公立保育園6園についての話し合いの体制について
質問事項 3	災害時のペット同行避難について
具体的内容	環境省は、人とペットの災害対策ガイドラインを発表し、三島市においても、災害があった時には、市内23カ所の避難場所において、同伴動物との同行避難が可能な場所が設けられる予定です。しかし、人が混乱しているときに、動物のことを優先的に行うことの難しさは想像に難くありません。事前にしっかりとイメージしておくことが必要不可欠です。 三島市では、避難所開設時に、誰が見ても全体の動きがわかるように、避難所開設アクションシートを避難所の目立つところに貼っておくことになっています。誰が避難所に来ても、避難運営のための手順が一目でわかるシートを貼っておくことは、非常事態の中とても大切です。 ペットとの同行避難も全く同じで、誰が動物のスペースを作るのか、名簿を作り、名前が書いた札を書くのかなど、必要な手順を誰が見てもわかるようにしておくことは必要です。
1	スターターキットの作成について
2	ボランティアコーディネーターの設置について

# 一般質問発言通告書

発言順位 17番

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和 5年 6月 6日

三島市議会議長 藤江 康儀 様

三島市議会議員 5番 鈴木 文子

質問事項 1	ヤングケアラー支援について
具体的内容	
<p>ヤングケアラーとは、家族にケアを必要とする人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートを行っている18歳未満の子供をいいます。その中で、社会生活や学校生活・人生にも影響するような過度な負担の大きなケア、長時間・長期間やらないという選択肢がない子供たちがいる現状に、周囲が目を向け、支援をしていくことは急務と考えます。以下について伺います。</p>	
1 三島市の実態調査・把握している状況について	
2 関係機関職員への研修について	
3 関係機関連携による支援体制の整備について	
4 ヤングケアラーコーディネーター配置について	
5 相談支援の推進と今年度のヤングケアラー支援推進事業の内容について	
質問事項 2	HPV ワクチン定期接種について
具体的内容	
<p>HPV の感染が原因と考えられる子宮頸がんの予防には、HPV ワクチン接種と、2年に1回検診を受けることが大切です。日本では年間約1万1,000人の女性が子宮頸がんにかかり、2,900人が亡くなっています。20歳代から増え始め、30歳代までにがん治療で子宮を失ってしまう人も1年間に約1,000人います。この様なことを踏まえ、定期接種対象者へ明確なお知らせとなる個別通知は重要です。特にキャッチアップ世代は令和6年度が最終年度となります。そこで以下について伺います。</p>	
1 令和4年度の個別通知の取り組みについて	
2 接種者の状況・接種率について	
3 接種後の健康異常等の有無について	
4 令和5年度にキャッチアップ世代へ確実な周知方法として個別通知が必要と考えるがどうか。	
質問事項 3	災害時等の命を守る取り組みについて
具体的内容	
<p>6月2日に大雨警報・土砂災害警戒情報が発表された後、土砂災害警戒区域に指定されている区域の避難所が開設され、避難指示が発令されました。6月3日16時30分に加茂地区に発令されていた避難指示は解除され、市内の避難指示はすべて解除となり、大きな被害が無かったことは幸いでした。</p> <p>また、5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことも踏まえ、以下について伺います。</p>	
1 避難所開設はコロナ禍前のマニュアルの活用になるのかどうか。	
2 静岡県が実施する女性防災リーダー育成研修への参加の再開を考えてはどうか。	
3 聴覚障がい者支援に活用するバンダナを作成してはどうか。	
4 高齢者向け熱中症対策の周知について	
5 自衛隊の災害派遣の仕組みについて	

# 一般質問発言通告書

発言順位 18番

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和5年6月6日

三島市議会議長 藤江 康儀 様

三島市議会議員 16番 佐野 淳 祥

質問事項1	DX時代の広報戦略で、「必要な人に」「必要な情報を」「必要な時に」どう届けるか
具体的内容	スマートフォンのSNSやニュースアプリなどでは、その人の趣向や生活環境などをAIが把握し、欲しいと思われる情報を優先的に多く得られるよう、無限の情報から自動に取捨選択されています。多様な人が暮らす本市においても、市民のために有効な施策を多く展開していますが、子育て世帯、高齢者世帯、障がい者など、その人に合った情報を迅速的確に伝えることが求められます。つきましては、以下のとおり質問いたします。
	1 広報みしまの今後について
	2 子育てアプリ導入により、子育て世帯給付金等において当局職員負担軽減ならびに地域経済への波及効果を創出できないか。
	3 高校生世代への学習支援、経済的支援の情報収集について
質問事項2	三島市の歴史、文化の継承と観光に生かす
具体的内容	東京や大阪など大都市に人口が集中する現代で、地方都市の武器となるのが、まちの持つソフトパワーです。ソフトパワーとは、文化・芸術や歴史などですが、三島市がいま発展している大きな要素は、「三島独特の歴史や文化の魅力」ではないでしょうか。魅力的な歴史や文化があり、魅力的な市民がおり、さらに魅力的な人々が移住してきています。歴史・文化を大切にするために、以下のとおり質問いたします。
	1 三島市誌は1958年刊行、1987年に増補、今後の予定はどうなっているか。
	2 箱根から日本遺産「箱根八里」への更なる誘客について
	3 塚原古墳群の活用について
質問事項3	中心市街地と商業の活性化
具体的内容	三島市は、可住地人口密度が全国1741市区町村中209位(県内では2位)と高く、コンパクトシティが求められる人口減少の時代に有利なまちの形態となっています。南口東街区再開発事業をはじめ、広小路駅、三嶋大社を結ぶトライアングルを、まちなかりノベーション推進計画で持続的な発展を目指すまちづくりは、江戸時代から続く三島宿を中心としたまちの発展となんら変わりはありません。つきましては、以下のとおり質問いたします。
	【新庁舎建設事業について】
	1 歴史的な背景をどのように考えているか。
	2 必要とされる駐車台数を算定する基準は何か(来庁者、免許返納者、曜日時間帯、民間P)。
	3 MaaSが急速拡大、車保有の大幅減少が予想される将来、駐車場は不要な資産とされないか。
	4 南二日町を建設地とした場合、サッカー場やグラウンドは移設をするのか。
	【中心市街地の発展について】
	5 再開発のにぎわいをどのように市内個店の売上増につなげるのか。
	6 ウォーカーブルには、休憩するベンチの設置が必要ではないか。
	7 ビル風対策として、手すりを兼ねた防護柵を設置できないか。
	8 高齢者バス等利用助成事業のチケットを、一般個店でも購買客にサービス利用できないか。